



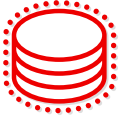
自信をもって仮想 インフラストラク チャを管理

Red Hat で VM とインフラストラ
クチャの管理を導入



Red Hat

目次



第1章

仮想マシンはビジネスの 現実

3 ページ



第2章

複雑な仮想インフラ ストラクチャを管理する

4 ページ



第4章

Red Hat で仮想マシン の継続的な運用を管理 する

9 ページ



第3章

選択したプラットフォーム 上で仮想マシンを運用 および管理する

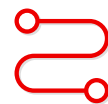
7 ページ



第5章

任意のペースで移行 する

12 ページ



詳細はこちら

現状から始めて、準備 ができればモダナイズ する

15 ページ



第1章

仮想マシンはビジネスの現実

仮想マシン (VM) は、さまざまな重要なビジネス・アプリケーションや運用アプリケーションの基盤となるため、IT インフラストラクチャの重要なコンポーネントです。

仮想化テクノロジーは、普及した当時は一歩先を行くものでした。仮想化によって置き換えられたのは、ハードウェアリソースを十分に活用するには非効率なことが多いモノリシックな IT インフラストラクチャだったからです。現在、コンテナ化がスケーラビリティと柔軟性を提供しており、企業が長年にわたって投資してきている仮想化テクノロジーは重要なワークロードを実行する上で引き続き中心的な役割を果たしています。



VM と関連インフラストラクチャの管理に関する課題

VM と、ストレージ、ネットワーク、その他のリソースなどの関連インフラストラクチャ・コンポーネントを効果的に管理するのは複雑になる場合があります。プロビジョニングとデプロイメントから継続的なメンテナンス、そして最終的な廃止に至るまで、速度、正確性、一貫性を確保することが重要です。

新しい VM をプロビジョニングすることを考えてみましょう。管理者であるあなたは少なくとも、VM の提供に加えて、ストレージとネットワーク接続を調整し、あなたに依存している開発チームやその他の関係者の要求を満たす必要があります。

デプロイ後は、継続的な Day 2 オペレーション・ライフサイクルも管理する必要があります。そこでは往々にして、手動プロセスに苦勞することになります。つまり、タスクの完了が遅れたり、変更の適用に一貫性がなかったり、人的ミスが発生したりといった課題が生じます。チームが数千、あるいは数万の単位で VM と関連インフラストラクチャを管理している場合、この課題はより顕著になります。適切なツールがなければ、これらの課題によってリソースの無駄、パフォーマンスの低下、提供の遅延が発生する可能性があります。

これらすべてによって浮き彫りとなるのは、VM の可用性、パフォーマンス、および一貫した構成の維持とセキュリティリスクへの迅速かつ継続的な対処を実現する、統合および合理化された管理の必要性です。それと同時に、リソースを最適化し、コストを管理し、セキュリティリスクを軽減するために、使用されていない VM や冗長な VM を迅速に廃止する必要があります。

仮想インフラストラクチャ全体を管理する

VM の管理には、マシン自体の管理だけでなく、接続されたマルチベンダー・インフラストラクチャの監視も含まれます。Red Hat® Ansible® Automation Platform は、VM 管理だけでなく、以下を含む仮想インフラストラクチャ全体の管理を網羅します。



ネットワーク: ネットワーク構成を自動化し、更新を管理し、VM の接続性を確保します。



ストレージ: プロビジョニング、バックアップ、リカバリープロセスなどのタスクを自動化することで、データストレージを効率的に管理します。



IT セキュリティ: 個々の VM からより広範なインフラストラクチャまで、仮想環境のあらゆるレイヤーに強力なセキュリティ管理を組み込みます。



バックアップとリカバリー: 障害復旧ワークフローを自動化して、重要なアプリケーションとデータの可用性が中断されるのを回避します。

第2章

自動化を使用して複雑な仮想インフラストラクチャを管理する

自動化は、効率的な仮想インフラストラクチャ管理において重要な役割を果たします。繰り返すタスクを手作業で実行すると、エラーが発生する可能性が高まり、それらのエラーを特定して修正するのに貴重な時間を費やさなければなりません。

仮想インフラストラクチャ管理に関連するタスクを自動化することで、大規模な仮想化環境のパフォーマンスを維持し、現在のビジネス需要に合わせて VM を迅速に拡張できます。自動化は組織に以下のメリットをもたらします。

- VM のプロビジョニング時に標準の構成とルールセットを適用する
- ネットワークやストレージなどの関連インフラストラクチャを管理する
- マルチベンダー、マルチドメイン環境全体でタスクをオーケストレーションする
- 手作業の管理プロセスを自動化されたワークフローに置き換える
- 構成をアップデートおよびアプリケーションをインストールする
- VM をより効率的かつ大規模に移行する
- 管理チームと運用チームの効率を高める

エンドツーエンドの自動化を大規模に導入することで、組織は VM をより効率的に構築、デプロイ、管理し、主要なアプリケーションとワークロードの需要を満たすことができます。

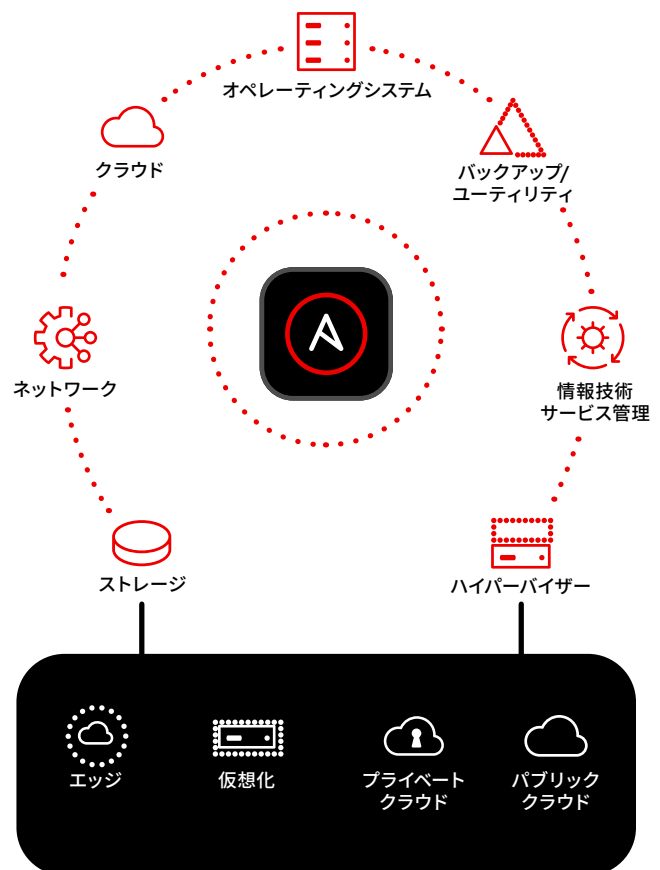
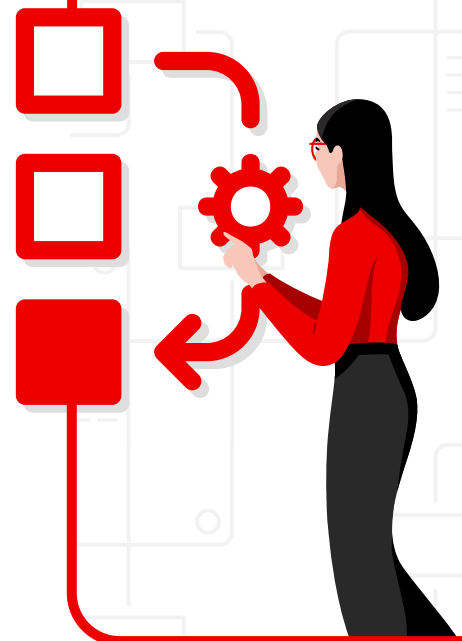


図1: Red Hat Ansible Automation Platform を使用して複雑な仮想インフラストラクチャを自動化。

どこから自動化を始めるか

どのチームも最初に取り組まなければならない課題は、どこから始めるかということです。自動化の導入に向けて踏み出す前に、一歩下がって組織全体の VM ライフサイクル全体を観察することが重要です。

VM は単独で存在するわけではなく、ネットワーク、ストレージ、データベース、バックアップシステム、高可用性ソリューション、監視およびログツールなどを含む大規模なエコシステムの一部です。

効果的な VM 管理には、統合された自動化フレームワークを通じてこれらのコンポーネントを管理する総合的なアプローチが必要です。これにより、インフラストラクチャのあらゆる側面が最適化され、独自のビジネスニーズをサポートできるようになります。

また、自動化は組織にとって、より高速で信頼性と拡張性の高い運用を行うのにも役立ちます。



速度: 自動化によってプロセスが加速され、迅速なプロビジョニングと、インフラストラクチャの変更やパフォーマンスの問題へのリアルタイムの対応が可能になります。

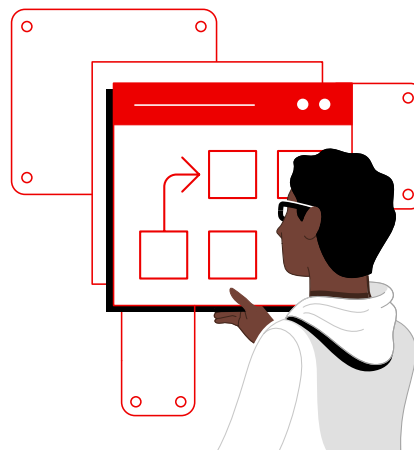


一貫性: 標準化された自動化により、人的ミスのリスクが軽減され、ベストプラクティスに従って VM を構成および保守できるようになります。



スケーラビリティ: 少数の VM を管理する場合でも、複数のデータセンターにまたがる数千の VM を管理する場合でも、自動化はニーズに合わせて簡単に拡張できます。

セルフサービス機能によって自動化の価値がさらに高まり、開発チームは IT 運用に負担をかけずに特定の構成で VM を起動または管理できるようになります。イベント駆動型の自動化により、これをさらに一歩進めることができます。つまり、事前定義されたアラートにシステムが自動的に応答して、ピーク需要時にリソースを拡張したり、アイドル状態の VM についてチームに通知したり、必要に応じて VM を自動的に廃止したりするなどが可能になります。



VM を自動化する理由

VM を自動化すると、いくつかの重要なメリットが得られ、組織に役立ちます。

大規模に完了することが多い反復的な手動タスクを自動化することで、**人的ミスを削減**し、精度を向上させます。

VM だけでなく関連するインフラストラクチャも管理することで、**完全性が向上**します。

マルチドメイン・ワークフローを**効率化**し、膨大な手動調整を排除します。

時間を節約し、**チームの効率性を向上**させて、チームをイノベーションに振り向けることができます。

変化する状況に**自動的に対応**し、VM と関連アプリケーションのレジリエンスを向上させます。

VM を新しいプラットフォームに移行する際の**複雑さ、時間、コスト**を削減します。

アプリケーションをクラウドネイティブのコンテナベース・アーキテクチャに導入し、段階的にリファクタリングすることで、アプリケーションのモダナイゼーションへの**道筋を確立**します。

ケーススタディ：Blue Cross NC が自動化によって効率向上を達成

健康保険会社の Blue Cross and Blue Shield of North Carolina は、よりよく、よりシンプルで、より安価に利用できる医療の実現を目指して取り組んでいます。そのためには、一連の VM を迅速にプロビジョニングする必要がありました。自動化を使用することで、コストのかかる外部マネージドサービスを置き換え、VM プロビジョニングの自動化により 2 年間で作業時間を 7 万時間節約できました。¹ この移行により、サービスの応答性が向上し、効率の改善とプロビジョニング関連コストの削減を達成しました。

Blue Cross NC のテクノロジー・インフラストラクチャ担当ディレクター、Bojovic 氏は言います。「複雑で繰り返しの多い数々のタスクを Ansible Automation Platform で自動化することで、コスト効率の高い、一貫性のある効果的な処理を通じて IT がビジネス価値を生み出すことを実証できました。最初の 2 年だけでも 20 万の Ansible Playbook を実行し、推定 7 万時間分の作業を削減できました。仮にスタッフの時給が 50-75 米ドルとして計算すると、膨大なコストを節約したことになります」

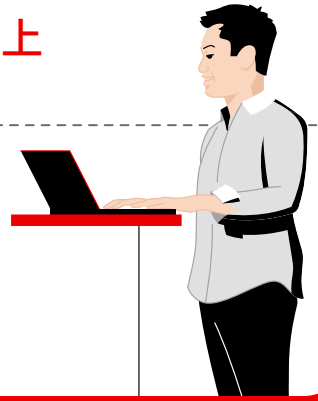
わずか 2 年で実現したコスト節約

85 万米ドル以上

2 年間で

**7 万時間分の
作業**

の削減を達成



大規模な仮想インフラストラクチャの自動化は次の 3 つの主要領域に貢献：



プロビジョニングと Day 1

標準化された構成に従って新しい VM と関連インフラストラクチャをプロビジョニングし、新しい VM をセキュリティ監視ツールに登録するなどのオーケストレーション手順を完了し、関連リソースへのアクセスを確保します。



Day 2 オペレーション

ヘルスチェック、パッチ適用、バックアップ、継続的なセキュリティリスク管理、未使用の VM の廃止など、運用ライフサイクル全体にわたって VM および関連インフラストラクチャの継続的な管理タスクを実行します。



移行

準備ができれば、任意のペースで VM を移行し、必要に応じてコンテナベースのクラウドネイティブ・アプリケーションへとモダナイズするために必要な手順を実行します。

¹ Red Hat 事例「保険会社が社内の IT 自動化により 7 万時間分の作業を削減」2021 年 5 月 13 日。

第3章

選択したプラットフォーム上で仮想マシンを運用および管理する



ハイブリッドクラウド全体で実行する場合でも、ネットワークエッジで実行する場合でも、仮想化のニーズに適した環境を選択できることが、運用のアジリティとレジリエンスを実現するために不可欠です。Red Hat の堅牢な自動化ソリューションは、Day 0 の計画段階から Day 2 までの VM ライフサイクル管理を自動化および単純化するように設計されています。このソリューションを使用して、選択したプラットフォーム上で、必要なプラットフォームを手に入れることができます。

組織の現状に合わせてデプロイできる柔軟性でニーズに対応

組織の要件は、業界、ビジネスニーズ、既存のインフラストラクチャに応じて異なります。

Ansible Automation Platform は、VM を実行するためにどのプラットフォームを使用しているか（クラウド、オンプレミス、エッジのいずれで実行しているかを含む）に関係なく、運用の一貫性を維持するのに役立ちます。認定コンテンツコレクションは、さまざまな仮想化プラットフォームで利用できます。また、Amazon Web Services、Microsoft Azure、Google Cloud などの主要なクラウドプロバイダー、ネットワーク、バックアップ、ストレージ、その他のベンダー・ソリューション向けのコレクションも利用できます。Ansible Automation Platform サブスクリプションを通じてサポートされ、利用できる 170 を超えるコンテンツコレクションを使用すれば、仮想インフラストラクチャの新しい自動化シナリオを迅速に開始できます。

組織の現状に合った自動化

Ansible Automation Platform は、お客様のニーズに合わせて、仮想化や関連インフラストラクチャ用に選択したベンダーだけでなく、お客様が選択したデプロイメント・プラットフォームにも対応します。Ansible Automation Platform は、独自の要件に最適なインフラストラクチャの管理を自動化する、柔軟性の高いソリューションです。



170 以上

Ansible Automation Platform サブスクリプションで利用可能な Ansible コンテンツコレクションの数。サブスクリプションを通じてサポートも提供されます。

VM がどこにあっても管理可能

Ansible Automation Platform は、インフラストラクチャを実行する場所に関係なく、自信を持って VM を管理するためのツールを IT チームに提供します。



プラットフォームの柔軟性向上: エッジに至るまでの全体で、ハイブリッドクラウド全体のさまざまな環境で一貫したプロセスを使用して VM を管理します。



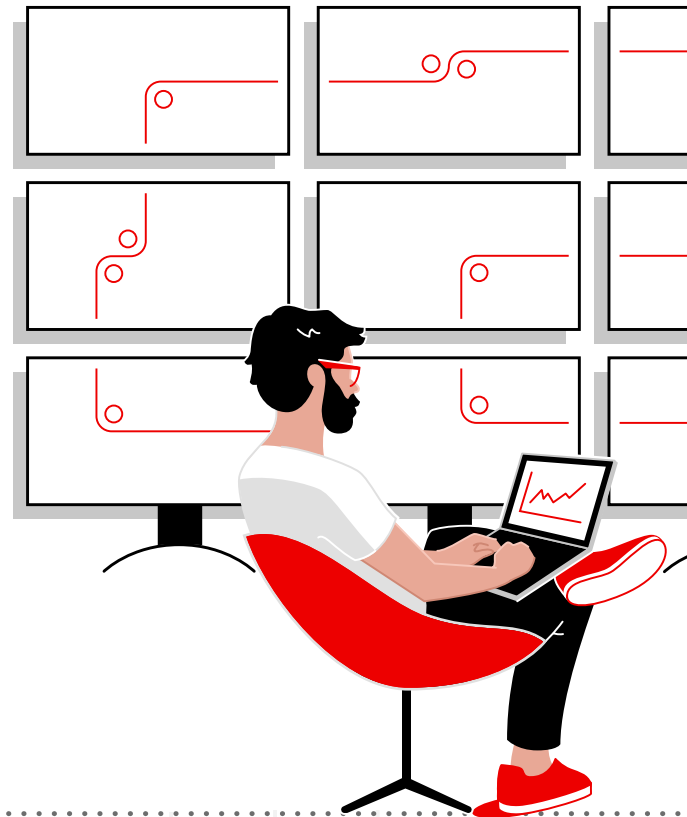
運用の拡張: サブスクリプションに含まれている自動化コンテンツから始めて、幅広い IT テクノロジーにわたる自動化を大規模に単純化します。



イベント駆動型の自動化の採用: Ansible Rulebook を使用して、パフォーマンスを維持するためにリソースをスケールしたり、問題を自動的に解決したりするなど、変更に対応します。



リスク管理の強化: 単一の共通自動化ソリューションを使用して、セキュリティ標準を維持し、構成の一貫性を確保し、脆弱性に積極的に対処します。



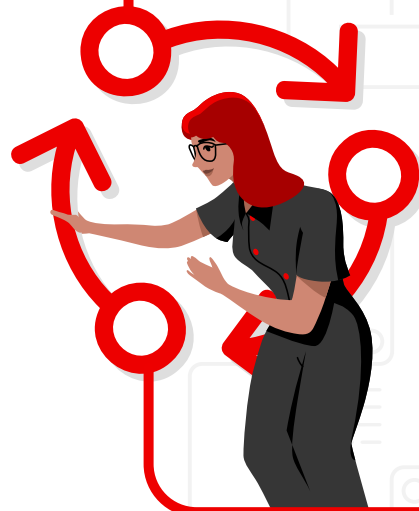
第4章

Red Hat で仮想マシンの継続的な運用を管理する

VM の運用ライフサイクルは、デプロイで終了するわけではありません。

VM を継続的かつ効果的に管理するには、継続的な監視、メンテナンス、変化するビジネスニーズへの適応が必要です。リソースの拡張、システムのパッチ適用、バックアップの管理、インシデントへの対応などのタスクは、適切なツールがなければすぐに手に負えないものになる可能性があります。

Ansible Automation Platform を使用することで、IT チームは、選択したプラットフォームで実行されている VM のライフサイクルを自動化、オーケストレーション、最適化できます。



タスクを自動化して VM のスムーズな実行を維持

効果的な VM 管理とは、VM 自体からそれが依存するインフラストラクチャに至るまで、エコシステム全体のタスクを自動化することです。

あらゆる IT ドメイン内および IT ドメイン間でのライフサイクル管理

- ヘルスチェックとドリフト
- アップグレード、ロールバック
- GitOps

- プロビジョニング
- オーケストレーション
- 移行
- インベントリ



自動化の
ユースケース

- インシデント対応の自動化
- コンプライアンス
- 最適化
- パッチと更新
- 継続性
- 廃止、廃棄
- ITSM

図 2: VM と関連インフラストラクチャ全体のライフサイクル管理の自動化ユースケース。

VM 運用のあらゆる側面を自動化する適切なツールにより、Red Hat は次の 4 つの主要領域で組織を支援できます。



1 インベントリ管理と構成管理

VM と関連インフラストラクチャのインベントリを自動的に収集して更新します。ServiceNow の構成管理データベース (CMDB) などのシステムをリアルタイムデータで最新の状態に保ちます。



2 ヘルスチェックと監視

自動ヘルスチェックを実行して、VM が実行中およびアクセス可能であり、適切に動作していることを確認します。サービスの低下を回避するためにリソースをスケールアップするなど、検出された問題に対応するためにイベント駆動型の自動化を採用します。



3 バックアップと障害復旧

バックアッププロセスを自動化して、VM データとアプリケーションを保護します。自動化の成熟度に応じて、事前定義された条件に基づいてバックアップをスケジュールまたはトリガーできます。



4 パッチとアップグレード

VM 上で実行されているオペレーティングシステム、ハイパーバイザー、アプリケーションにパッチと更新を適用します。必要に応じて以前のバージョンにロールバックすることもでき、中断することなく一貫した更新が保証されます。

信頼できる唯一の情報源の適用

信頼性の高い運用には、反復性が重要です。Red Hat は、Configuration-As-Code を通じて組織が構成の一貫性を維持できるように支援します。Configuration-As-Code は GitHub、または構成やその他の仕様に関する信頼できる唯一のリポジトリを介して利用できます。これにより、必要な構成がすべての VM およびサポート・インフラストラクチャにわたって一貫して実装されるようになります。Ansible Playbook と Ansible Rulebook を使用してこの信頼できる唯一の情報源を活用すると、構成のドリフトが削減され、コンプライアンス維持の複雑さが軽減されるため、期待通りの一貫した運用を維持できます。



VM とインフラストラクチャのセキュリティリスクの管理

セキュリティは継続的な IT 運用の基礎であり、仮想インフラストラクチャも例外ではありません。Red Hat は、次のような重要なセキュリティタスクを自動化することで、組織のリスクを軽減します。



セキュリティ標準の更新:最新のセキュリティ標準を満たすように VM とインフラストラクチャを自動的に更新します。



不審なアクティビティへの対応:イベント駆動型の自動化を選択することで、セキュリティインシデントを管理者に通知したり、調査できるまで不審なアクティビティを直ちにシャットダウンしたりします。



脆弱性を修正するためのパッチ適用:既知の脆弱性に対処するために定期的にシステムにパッチを適用し、脅威にさらされる可能性を減らします。

問題や状況の変化に迅速に対応

プラットフォームの一部として、Event-Driven Ansible は VM 運用を管理するための柔軟でプロアクティブなアプローチを提供します。これにより、問題に迅速かつ効果的に対応できます。Event-Driven Ansible を使用すると、自動応答の条件を選択して、実行するアクションを設計できます。イベント駆動型の自動化の有効性を理解するには、VM 管理の一般的なユースケースをいくつか見てみると役に立ちます。



問題の検出と解決

Ansible Rulebook により、可観測性および監視ツールと組み合わせて使用することで、問題を自動的に検出して解決するイベント駆動型ワークフローを作成できます。たとえば、CPU またはメモリの使用量が、設定されたしきい値を超えると、アラートが送信されます。このアラートにより、Ansible Rulebook に基づき、パフォーマンスを維持するためにリソースがスケールアップされます。



セルフサービス・プロビジョニング

各チームが必要に応じて VM とリソースをプロビジョニングできるため、IT 運用の負担が軽減されます。イベント駆動型のワークフローにより、それらのアクションが組織のポリシーに準拠していることが保証され、ポリシーに準拠した VM を作成するための手作業が不要になります。



サービスチケットの統合

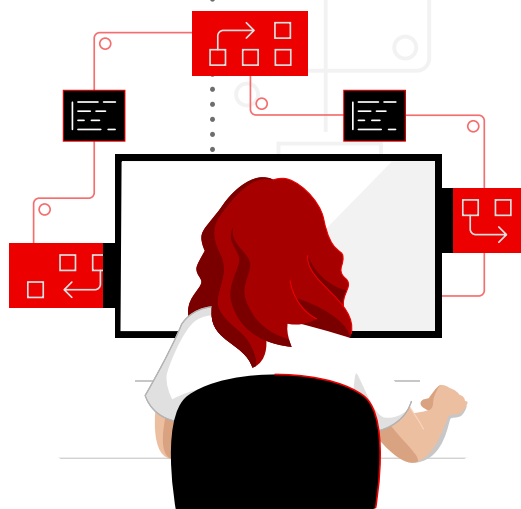
ServiceNow などの IT サービス管理システムと統合して、サービスチケットを自動的に作成、更新、解決します。これには、解決時間を短縮するためのサービスチケットのファクト収集など、自動化されたアクションも含まれる場合があります。



未使用のリソースの廃止

自動化を使用して非アクティブな VM を識別し、低コストのストレージオプションに移動させるか、すべてをアーカイブして、運用コストを削減します。

VM の継続的な運用を管理するには、エコシステム全体に対応する総合的で自動化されたアプローチが必要です。Ansible Automation Platform により、組織はタスクを自動化し、継続性を維持し、変化に積極的に対応できるようになります。適切なツールは IT チームにとって、手作業を削減し、セキュリティ体制を強化するのに役立ちます。それらのツールにより、規模を問わずあらゆるプラットフォームで最高のパフォーマンスを実現できます。



第5章

任意のペースで移行する

Red Hat OpenShift® Virtualization は、組織が先進的なアプリケーション・プラットフォーム内で仮想マシン (VM) ワークロードを効率的に管理および運用できるようにする Red Hat ソリューションです。

OpenShift の完全統合機能として、コンテナ化されたワークロードと既存の VM が共存して動作できるシームレスな環境を提供します。この統合的なアプローチにより、企業はモダナイゼーションに向けて準備を進めながら現在の業務を最適化できます。

OpenShift Virtualization は、効率的な VM の管理と移行に必要なツールを提供します。また、より広範な OpenShift プラットフォームにより、組織は徐々にアプリケーションをモダナイズし、クラウドネイティブ・インフラストラクチャを導入することができます。オンプレミス、クラウド、エッジのいずれで運用する場合でも、Red Hat OpenShift は一貫性のある柔軟な運用を可能にするため、多様な IT 環境にとって価値のある選択肢となります。

破壊的革新が進む仮想化市場において、OpenShift の仮想化機能は魅力的な代替手段となります。Red Hat OpenShift と Ansible Automation Platform の高度な自動化機能を組み合わせることで、組織はワークフローを自動化し、複雑な VM 移行を大規模に単純化し、日常業務を効率化できます。これらのテクノロジーを組み合わせることで、従来の仮想化プラットフォームから移行するための信頼性の高いパスが提供され、ハイブリッド環境とモダナイゼーションのためのスケーラブルで堅牢な基盤が確立されます。

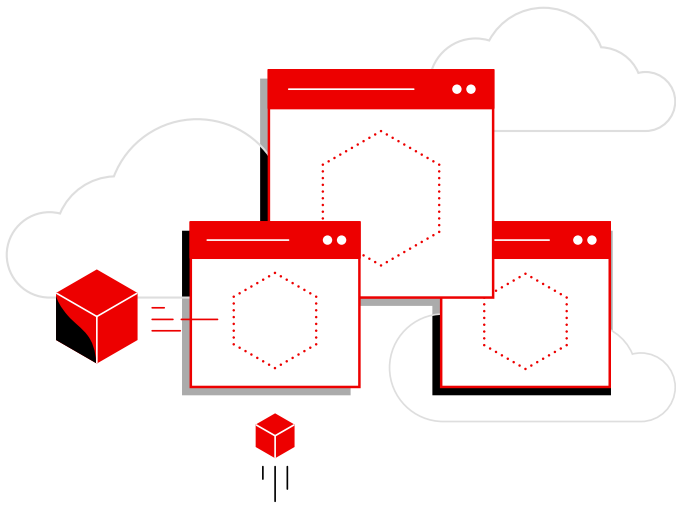


適切なツールで容易に移行

Red Hat に付属の仮想化移行ツールキットを使用すると、VM 移行プロセスを単純化し、中断を最小限に抑えることができます。直感的なインターフェースとプロセスで使用する仮想化移行ツールキットは、Red Hat OpenShift の統合機能として利用でき、限定的なダウンタイムで移行を評価、計画、実行するためのツールを提供します。

Ansible Automation Platform と組み合わせることで、VM の移行を実行するプロセスを大規模に自動化できます。この移行ツールキットは、貴社の条件に合わせて移行を進めるのに役立ち、次のことをサポートします。

- 移行の準備ができていない VM と、スムーズな移行のために必要となる調整作業を特定するのに役立つ、詳細な評価レポートを生成します。
- Ansible Automation Platform を使用して、大規模な VM グループとその関連インフラストラクチャの移行を効率的に拡張し、急速に変化する IT 環境の要求に応えます。
- Ansible Automation Platform は、スケーラブルな移行のための自動化レイヤーを追加し、現在の環境から先進的なプラットフォームにワークロードを移行するために必要な時間と労力を削減します。



Red Hat の仮想化移行ツールキット、Red Hat Advanced Cluster Management for Virtualization、および Ansible Automation Platform によって補完される Red Hat OpenShift Virtualization により、組織は仮想インフラストラクチャを移行しながら、継続的かつ複雑な Day 2 オペレーションタスクを一貫性、効率性、正確性をもって管理できます。

これらのソリューションを組み合わせることで、ハイブリッドクラウドを成功させるための明確な道筋が提供され、VM を自信を持って移行し、VM とコンテナをシームレスに管理し、クラウドネイティブ・アプリケーションへとモダナイズし、多様な環境にわたって可視性と制御を維持できるようになります。

移行とモダナイゼーションに対する Red Hat のアプローチにより、タイムラインを設定し、次のことが可能になります。



IT への既存の投資を維持する

将来の計画を立てながら、現在の VM とインフラストラクチャを引き続き使用します。ビジネスクリティカルなアプリケーションを運用し、任意のペースでリプラットフォームすることで、中断を回避します。



リスクを最小限に抑える

移行プロセスを大規模に自動化して、正確性と一貫性を確保し、ダウンタイムと人的ミスを削減します。段階的な移行により、複雑さに徐々に対処できるため、組織はリスクにさらされることなくモダナイゼーションの取り組みを継続できます。



コストを制御する

モダナイゼーションの費用を時間をかけて分散させ、多額の初期コストを回避します。また、自動化により、チームは反復的な手作業から解放され、運用上の労力が軽減されるため、コストがかかる可能性のあるエラーを回避しながら、より価値の高い取り組みに集中できるようになります。



将来に備える

VM とコンテナ化されたワークロードの両方をサポートする統合プラットフォームを使用して、モダナイゼーションの基盤を構築します。

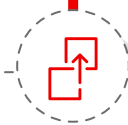
Red Hat ソリューションによる移行とモダナイズ

Red Hat は、VM の効率的な管理と移行に役立つ包括的なツールキットを提供します。



1 移行する必要があるもののインベントリを作成する

所有している VM と移行する VM を把握します。たとえば、部門別の VM のセットなど、VM グループの詳細を把握します。その後、部門グループなどの移行の詳細を計画します。



2 Red Hat の仮想化移行ツールキットを使用する

仮想化移行ツールキットを使用すると、VM を OpenShift Virtualization に移行するために必要なすべての詳細を計画できます。このツールキットを使用すると、移行を開始する前に VM 構成のチェックを迅速に実行し、移行プロセス全体を通じて他の実行中のワークロードの中断を回避できます。



3 大規模に移行する

通常は、VM の大きなブロックを一度に移行します。Ansible Automation Platform がそれらの VM を大規模で迅速に、かつ一貫して移行します。Ansible Playbook を使用すると、Red Hat の仮想化移行ツールキットで検出および定義した設定を使用して、移行を大規模に行うことができます。



4 移行後、自動化された VM ライフサイクル管理を導入する

Ansible Automation Platform は、プロビジョニング、パッチ適用と更新、バックアップ、構成管理、自動修復、未使用の VM の廃止など、VM のライフサイクル全体を自動化します。また、**自動化ワークフローを拡張**してプロセスを効率化し、上記で詳しく説明したように、それらのワークフローを使用してネットワーク、ストレージなど、VM に関連付けられたすべての関連テクノロジーのライフサイクル管理を行うこともできます。



5 モダナイゼーションへの道筋

Red Hat OpenShift Virtualization を使用すると、VM ベースのアプリケーションとコンテナ化されたアプリケーションの両方を単一のプラットフォームで実行できます。この両輪の機能により、VM とコンテナを一緒に管理することで運用を単純化する統合管理が実現します。これにより、既存の環境を中断することなく、準備が整ったときに自分のペースでコンテナベースのワークロードへの移行を準備することもできます。

ハイブリッドクラウド、ベアメタル、マルチクラウドなど、最適なプラットフォームにワークロードをデプロイできるソリューションにより、どこにでもデプロイし、あらゆる場所をモダナイズできるようになります。

Red Hat サービスとパートナーによる支援

Red Hat サービスチームは、Ansible Automation Platform や Red Hat OpenShift Virtualization などの Red Hat プラットフォームに関して必要な専門知識を提供します。移行評価サービスを選択すると、移行を迅速に完了することや、ミッションクリティカルな規模でエンタープライズ全体の自動化を実装することができ、文化の変革に対する支援を得ることや学習によって1つまたは複数の分野に関するスキルを開発することもできます。また、Red Hat の信頼できるパートナーのエコシステムが、業界の専門知識をもたらすと同時に、貴社の環境を深く理解するのに貢献します。



さらに詳しく

現状から始めて、準備 ができたならモダナイズ する

VM 移行、管理、モダナイゼーションに対する Red Hat の柔軟なアプローチにより、タスクの自動化、リスクの軽減、クラウドネイティブ・テクノロジーへの容易な移行を実現し、独自のペースで適応できます。運用の継続性を維持しながら、将来に向けて IT 環境を準備することができます。Red Hat を活用すれば、モダナイゼーションは競争ではなく、ニーズに合わせたプロセスになります。



VM 移行の取り組みにおける次のステップ

Red Hat による[仮想インフラストラクチャ自動管理の詳細](#)をご覧ください。

仮想マシンから仮想化プラットフォームまで、仮想インフラストラクチャを自動化する方法を学びましょう。[オンデマンドで視聴できる Web セミナー](#)にアクセスしてご確認ください。

[Red Hat OpenShift Virtualization](#) の詳細をご確認ください。

[Red Hat Virtualization への移行](#)に関するインタラクティブ・チュートリアルをご利用ください。

Red Hat サービスが提供する [OpenShift Virtualization](#) の移行評価は、企業の自動化や仮想インフラストラクチャの移行に役立ちます。その詳細をご確認ください。